

「汗と涙の国際協力便り」

おいでなさん、ベトナム女性博物館



ベトナムの朝は早い。そして私の派遣先であるベトナム女性博物館の朝も早く、テトを除き、毎日8時にオープンします。私が出勤する頃にはすでに同僚達は仕事を始めており、「ここは本当にベトナムなんだろうか」と思ってしまいます。外の道路では男性たちがひまわりの種を食べながらチャーダー(冷たいお茶)やコーヒーを飲んでいるというのに。

私の派遣先は日本のガイドブックにも取り上げられ、インターネットの情報サイトでも高評価を頂いているベトナム屈指の博物館です。ベトナム女性博物館、という名の如く、Bich Van館長をはじめとするスタッフのほとんどが女性です。皆さん仕事熱心で、時には休日出勤する人もいます。こういった環境下で、私は外国人で唯一のフルタイムスタッフとして働いています。



ベトナム女性博物館での主な活動は、資料や展示品の日本語解説文を作成することで。館はこれ

れまで、日本の機関や団体と共催で日本人形展やふくしまフェスティバルなどのイベントを手がけており、日本とご縁があります。そういうこともあり、もっと日本の方に博物館に足を運んでいただきたいと考え、日本人来館者を受け入れるにあたり、既存のベトナム語、英語、フランス語の解説文にさらに日本語を加え、環境を整えたいというという要望がありました。現在、同僚と協力しながら日本語サイトや解説文の作成に取り組み、さらに館内を巡回するとともに、日本人来館者からヒアリングなども行っています。活動をするにあたり、下調べや資料の読み込みに大半の時間を費やしていますが、同時に展示物を観察することも大切にしています。解説文(ラベル)の作成に対し、ある著名な博物館では、ターゲットを「12-14歳くらい」とし、幅広い層の人に理解してもらえる解説文作成の必要性を説いています。既存の資料だけを基にしていると、私自身は理解しても多くの方には理解しにくいものとなってしまいかねません。そのため、実物を深く観察することや、来館者の皆さんの感想や質問等を参考にすることは非常に有効ではないかと思えます。

ベトナム女性博物館は向上に向けて絶え間ない努力を続けてきました。既存の解説文についても、カウンターパートや同僚、イギリス人

スタッフを含め、話し合いが重ねられ、改善に向けて動き出しました。私も日々、同僚から刺激を受け、多くのことを学ぶにつれ、ベトナムの素晴らしさに気付きました。ベトナムは非常に歴史と文化が豊かな国です。しかし、多くの旅行客の目的は買い物が主で、文化を知ることが二の次になっているように思います。私たちが手がける解説文を通して、もっと多くの人にベトナムの良さを知っていただけたら、と願いながら活動を進めています。



ベトナムに来て、かれこれ一年が経ちました。この一年は人間関係に恵まれ、たくさんのChi、Anh、Emに支えられ、充実した日々を過ごすことができました。また、2年の任期内に仕事を終わらせたいと必死だったこともあり、寂しさを感じる暇もありませんでした。残りの任期は、もっとベトナムの生活を楽しみ、もう少しベトナム語が話せるようになりたいです。大好きな大家のおばあちゃんと世間話ができるぐらいになることが次の目標です。そして、思い残すことなく笑顔でベトナムを去れるように、また一年頑張りたいです。



ベトナム女性博物館:36 Ly Thuong Kiet, Hoan Kiem, Hanoi
<http://www.baotangphunu.org.vn/>

●<プロフィール> 新聞三保子(にいぜき・みほこ)
長野県生まれ。大学院で社会学・文化人類学研究室に所属し、女性問題を研究。在学中に地元の美術館開設委員及び美術館友の会に参加。その後、イギリスに移住。2014年10月から青年海外協力隊としてベトナム女性博物館にて展示物の日本語解説文作成、所蔵物管理やイベント運営に従事。

